

令和7年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

- 1 学校の教育目標 『希望』を持ち、日々『感動』し、『仲間』と共に歩む児童の育成 ～ 思いをつなげ 輝け！！伊沢っ子 ～
 2 本年度の重点目標

- 子ども……進んで(主体的)学習に取り組もう。
- 教育活動……地域・関係機関と連携し、子どもたちが楽しく学習できるようにする。(連携強化)

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

○夢に向かってがんばる子 ・めあてを持つ力(目標・夢・志)・自分を見つめふりかえりチャレンジする力・人を大切にし協働する力・自分の考えを持ち表現する力

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価 考察(成果と課題)		次年度への改善点等	学校関係者評価	
				評価			
学校 経営	経営方針	学校経営方針の周知	毎月、学校だよりを通して学校経営方針に沿った取り組みを周知した。また、学校行事などで保護者が集まる機会にも学校経営方針を伝えるようにしてきた。各学年では、学年通信やHPで取り組みを知らせよう努めたが、HPの更新が十分でなかった。保護者評価は、95%と高い評価ではあるが、今後も引き続き分かりやすく伝えるよう心がけていく。	A	HPを定期的に更新するとともに学年だよりでの周知がさらに充実するように取り組む。	A	A
	学校教育目標	希望・感動・仲間の推進	「希望」「感動」「仲間」に対する保護者評価は昨年と同じくそれぞれ90%・96%・94%と高いものだった。児童評価では、「仲間」の項目が昨年度より少し上がり92%と高くなった。今年度の重点目標である「連携強化」の取り組みとして出前授業を多く行った。様々な方との出会いを通して楽しく学習できるように取り組んだことが児童評価「感動」の項目の92%につながっていると考える。	A	次年度も引き続き、児童が夢をもち、楽しく学習できるよう、教育活動の中での人との出会いを充実させていく。	A	
	学級経営	一人一人を大切にす る学級経営の実践	「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童はそれぞれ94%、95%であり、学校に行くのは楽しいと答えた児童の割合は昨年度より5%上がるなどいずれも高い評価であった。また、教職員も「子どもたち一人一人を大切に育てている」と答えた割合が7%上がるなど、学校が子どもたちにとって安心して生活できるところになるよう努めた成果がでた。	A	児童の実態把握に努め、教職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。	A	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「わかりやすい授業を工夫している」の教職員評価は13%上がり90%となった保護者評価も97%と高く、児童の実態に合わせて工夫して取り組んでいる。また、「子どもたち一人ひとりを大切に育てている」でも教職員評価は7%上がり100%、保護者評価も95%と高いものだった。児童一人ひとりの変化を見逃さず、全教職員で対応していこうと取り組んできたことが評価されたことと思います。	A	引き続きわかりやすい授業となるよう工夫するだけでなく、メンター制研修をさらに充実させ、学校全体で取り組む。	A	
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	教育環境に関する教職員評価は項目すべてで上がっていた。整理整頓を心がけた教職員も増加し73%となったが、全体の中でも低い評価であり課題が残る。学習環境が整うよう全教職員で取り組んでいきたい。施設・設備については、保護者評価が84%と教育環境の中では低いものとなったが、市教育委員会とも連携しながら修繕等を実施している。さらに点検を実施し、安全で美しい環境整備に努める。	B	設備の老朽化が進んでいるため、危険な箇所の点検を行いながら早期改善を図るとともに環境美化に努める。	B	
	業務改善	働き方改革の推進	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は96%であり、昨年(99%)に続き高い。昨年度より実施している水曜日特別日課だけでなく、2学期初め4時間授業や3学期初めの5時間授業にも協力的である。職員の時間外勤務時間も昨年度よりもさらに減っているが、教職員職員の評価は、72%と十分と思えていない教職員もいたため今後も推進していく。	B	教職員間の仕事量の偏りに配慮しながら、勤務時間のさらなる短縮につなげる。	A	

教育活動	学力向上	基礎基本の定着 学習意欲	今年度の重点目標であった「進んで(主体的に)学習に取り組んでいるか」と答えた評価は児童89%教職員91%であった。教職員の評価が、昨年度より41%上がっており、進んで学習に取り組む姿が多く見られたことがわかる。学校教育目標の「【感動】おもしろく・楽しく(ワクワク)学習に取り組んでいる」をさらに進め、主体的に学ぶ姿勢を伸ばしながら、基礎学力の定着を図っていく。	B	B	今年度、高学年で取り組んだ自主学習をさらに進めるなど、学年に応じて主体的に学習に取り組む態度を養う。	B	B
	心の教育 (人権教育)	人権尊重精神の育成 いじめ防止	学校教育目標【仲間】「いじめをせず友達と認め合い生活できている」は92%と「友達に会うのは楽しい」95%、と昨年同様児童評価は高くなっている。また学校教育目標【仲間】に関する保護者評価も94%と高い。市の人権教育研究大会に向け、研修を進めたことや児童理解を充実させる取り組みを行ってきたことがつながっていると考える。しかし「困ったことがあったとき、だれかに相談している」が76%と低く、相談しにくい児童がいることがわかる。定期的ないじめアンケート等を引き続き実施するだけでなく、教職員間で行っている「寄り添う会」で共通理解を図りながら人権教育を確かなものにしていく。	B		人権教育をさらにすすめ児童・職員の人権感覚を高めていく。また、居心地のよい学校作りをさらに進めていく。	A	
	生徒指導	望ましい生活習慣の 育成	「あいさつができています」については、教職員の評価が30%上がり73%、児童・保護者はそれぞれ86%82%となった。まだまだ課題はあるものの気持ちのよいあいさつができてくる児童が増えてきている。引き続き指導し、さらに改善されるようにしていく。「基本的な生活習慣」についての評価は、児童が4%下がり84%、保護者も7%下がり77%と昨年度より低いものとなった。また、「きまりを守り規則正しい生活を送っているか」の保護者評価も9%下がり81%となった。基本的な生活習慣や規則正しい生活は、健全な児童の成長の土台であるため、これまで取り組んだ「生活習慣きりチェック」の活用をさらに工夫し、保護者と連携を図りながら、改善に取り組みたい。	B		昨年度から取り組んでいるSWPBSをさらに広げ、児童が主体的に課題改善に取り組めるようにしていく。	B	
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の 向上	昨年度に引き続き「学校教育活動やPTA活動に参加・協力してるか」に対して保護者評価は61%と低い、教職員評価は100%と高くなっている。保護者負担を考え、PTA活動事態は減っているが、催した学校行事への保護者参加率は高く、協力して下さる保護者が多い。今年度初めて実施した「ホッとひと息サロン」では、6年生の保護者が運営に協力して下さり、保護者同士のつながりの新たな場となった。また、人権擁護委員の方を中心に「伊沢子ども食堂」が3回開催された。朝食を食べずに登校してくる児童もおり、新たな食育の推進の場となっている。学校に協力的な保護者・地域の方が多いため、地域の教育力がさらに生かせるよう行事などを体系的に組み込んでいきたい。	A		地域のすばらしい人材とともに行事を体系化し、マネジメントしていく。	A	